



プロムナード奥にあるファミリーレストラン風の打ち合せゾーン。日当たりが良く、落ち着いた雰囲気のため人気が高い。



平行四辺形のテーブルが印象的なオフィス全景。さまざまな従業員のさまざまな働き方に柔軟に対応することが可能だ。



オフィス風景。カスタムメイドのテーブルを使用し、向かい合う人の視線が重ならないように工夫されている。



オフィス前にあるパートナーズラウンジ。プロムナードからオフィスに入る手前に位置しており、明るく広々としたスペースとなっている。



テーブルやソファなどが置かれたプロムナード。各階の中心に設けられており、多くの従業員が交流の場として使用している。

20階



オフィス内の少人数用のミーティングルーム。使用頻度はかなり高く、これにより会議室不足の問題を解消した。



高級感溢れる23階の総合受付。すべてのお客様をここで迎え、左側に続くプロムナードに案内する。



23階のプロムナード。フロアごとに少しずつ違う仕掛けをつくり、「集まる、つながる、広がる」が実行できるスペースとなっている。



23階のプロムナードから見た景観。浜離宮や東京湾、房総まで見渡せる。この景観は従業員たちが得る最大の価値の一つである。



23階の窓際に設けられた応接ルーム。従業員のアイデアで各国の世界遺産の名前を付けてグローバルネットワークを象徴している。

一つに統合された新しいファームを 一人ひとりが実感できるオフィスへ

今回の移転では、それまで6つあったオフィスのうち新丸の内ビルディングの1カ所だけをエグゼクティブタッチポイントとして残し、基本的にはすべての従業員を集約させる。新オフィスはビルの10フロア分約4500坪で、これは移転前より若干狭くなるものの、統合によるスペースの有効利用効果を考えれば、問題のない広さである。したがって、計算上はそのまま人数分の机を並べれば入ることにはなる。

「ただそれでは『単にオフィスを一つにしました』というだけで、統合を進めてきた意味がありません。私たちが新オフィスのデザインに期待したのは、組織の融合やシナジー効果につながるアクティブな仕掛けだったのです」
(杉山氏)

ただし、その要求に応えるのが困難であることは、杉山氏自身もわかって

いた。「デザインコンペをする段階では、新しい組織がどうなるか、まだほとんど見えていない状態でした。普通に考えたら、レイアウトを立案する段階ではないのです。それでもスケジュールを考えると、そろそろデザイン会社を決めなければならない。そういう意味では、デザイン会社にとっては、どこが勝負どころか、まったくわからなかったかもしれません」(杉山氏)

小澤氏も難しいコンペになることは承知していた。「今回のコンペでは組織がどうなるかまったく決まっていなかったので、具体的なレイアウト案を提示しても評価のしようがありませんでした。したがって、今回の経営改革によって何を指しているのか、それを把握したうえでコンセプトを紐解いていく必要があったのです」

そんな特殊な要件でいくつかのデザイン会社に提案をもらう。そして最終的にパートナーに選ばれたのは、やはり本誌に登場経験のある天野大地氏がリードするゲンスラー アンド アソシエイツ インターナショナル リミテッドだった。小澤氏が言う。

「コンペに先立ち、私たちは今回のオフィス統合移転のコンセプトをワン・インテグレートッド・ファームとしていました。つまり、一つに統合された組織といった意味で、オフィスのスタイルから、ここに集う個々人がPwC Japanの一員としての共有意識を持てるようなデザイン案に期待していたのです。それを最も明確に提案してきたのがゲンスラーチームでした」

それでは、実際に天野氏のデザインをもとに完成した新オフィスを見ていこう。

ワン・インテグレートッド・ファームから 「集まる、つながる、広がる」オフィスへ

新オフィスをデザインしていくにあたり、天野氏は次のように発想を広げていったという。

「ワン・インテグレートッド・ファームというコンセプトを具体的なオフィスデザインに反映していくとしたとき、思いついたのは『集まる、つながる、広がる』という言葉でした」

そしてそこから導き出したのがバーチャルキャンパスという裏コンセプトだ。「大学のキャンパスは大教室や小教室、ゼミ室など、目的に合わせた多様なスペースが用意され、学生たちはそれらの場所を使い分けて集まりながら、つながりをつくり、世界を広げていきます。したがって新オフィスでも変化のある空間を用意すれば、組織の一体感が自然に生まれてくるのではないかと思いました」

このような考え方は、杉山氏も同感するものだった。「私たちのような業種ではオフィスがフリーアドレスであるケースが多く、席を移動しながら仕事をするにはみんな慣れていますが、ただその一方で、